

第1回 青森県

言語聴覚学会

「原点回帰」

大会長

塩谷 大 | 青森市民病院

2025

11/9

(日)

弘前医療福祉大学/短期大学部

(青森県弘前市小比内3丁目18番地1)

会費

正会員:3,000円 非会員:4,500円 学生:無料

招待
講演

「失語症を学び直す」

高倉 祐樹先生

北海道ことばのリハビリ相談室主宰

【企画】

- ・演題発表
(口述発表・ポスター発表)
- ・展示コーナー

【形式】 対面のみ(現地開催)

教育
講演

「あきらめない」をやり通す

-家族ならではのリハビリの記録と
STに期待する支援について-

北原 かな子先生

青森中央学院大学 看護学部教授



第1回青森県言語聴覚学会プログラム

招待講演

「失語症を学び直す」

高倉 祐樹先生 北海道ことばのリハビリ相談室主宰



失語症は難しい。これは、失語症を学び始めた頃の演者が強く感じていた率直な感想である。特に、古典的失語症タイプ分類は初学者の言語聴覚士にとって最初の壁となりやすいと思われる。評価者間で意見が分かれることは稀ではなく、どのタイプにも当てはまらない症例に出会うことも少なくない。その背景には、分類概念自体の曖昧さに加え、脳卒中急性期治療技術の進歩、患者の高齢化による非定型・複合的な症例の増加といった時代的要因も関与していると推測される（高倉ら2023）。

さらに、同じ失語症タイプであっても、症候の組み合わせや、その軽重は症例によって異なる。したがって、失語症タイプから直接的に治療的介入の方針が導き出せるわけではない。このような状況を踏まえると、古典的失語症タイプ分類からの視点転換が必要と考えられる。

そこで本講演では、失語症を構成する「要素的言語症候」に着目したアプローチ（相馬ら 2003, 大槻2007）を概説する。具体的には、単語理解障害・発語失行・音韻性錯語・喚語障害という4つの症候を取り上げ、各症候の基本的な評価法を整理し、次のステップとして応用的な視点も提示する。そのうえで、各症候に対する治療的介入の方向性を具体例とともに紹介する予定である。本講演を通じて、明日からの臨床における失語症の「難しさ」が少しでも軽減するような知見を共有できれば幸いである。

「あきらめない」をやり通す

-家族ならではのリハビリの記録とSTに期待する支援について-

北原 かな子氏 青森中央学院大学 看護学部教授

教育講演



2008年3月11日、大動脈解離を発症、その4日後に重度の脳梗塞となつてからの17年の間、私たちはたくさんの方々に助けられながら生きてきました。それまでほとんど知識がなかった介護や闘病の世界に向き合うことになり、介護を取り巻く制度について少しずつ学ぶことになりました。

また、私自身の専門は近代史です。残された史料を通して過去に生きた人たちに向き合い、語り合いながら社会や人生を考える研究をしてきました。夫は化学者です。自然界に存在する植物の中から、人の役に立つ物質をどう取り出し、どう生かしていくのか、について研究していました。二人とも研究者でしたが、夫の場合は、一気にその人生へのスタンスを変えることになり、またそれに伴って私も今まで以上に人間の生き方について考える機会を持つことになりました。

医師と看護師には、誰でも風邪などの病気で接することが多いと思います。しかし、療法士という職を持つ方々に出会ったのはこの病気になってからであり、理学・作業・言語各領域の個性や、そのリハビリを進める過程において、いろんなことを感じてきました。それは、一人の病人の家族というより、人間と人間の接し方の根本を考えることにつながっていったように思います。

今回、せっかくの機会をいただきましたので、自分たちがこの病にどう向き合い、なにを考え、どのように生きてきたのか、その具体的なところをお話ししてみたいと思います。

症例発表



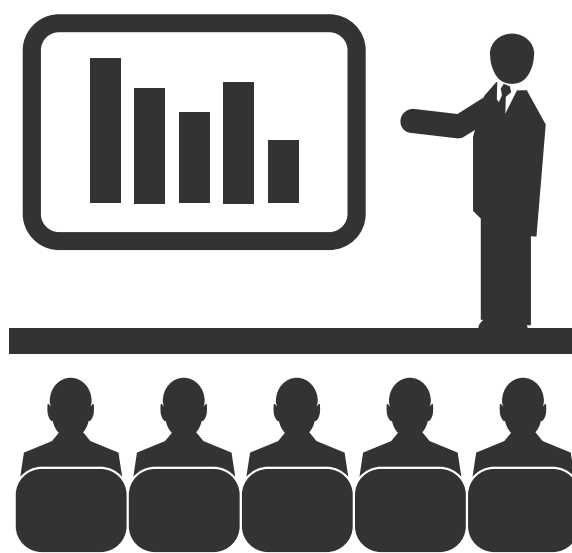
口述発表 演題

- 1 Wallenberg症候群による重度嚥下障害の遅発的改善例
花田 和可子(津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科)
- 2 姿勢アライメントが口腔期・咽頭期に影響していた一例～水分の増粘剤減量を目指して～
栗林 紅杏(メディカルコート八戸西病院 リハビリテーション部)
- 3 脊髄小脳変性症患者に対する短期集中型の言語療法の効果
森川 裕亮(青森県立中央病院・リハビリテーション科)
- 4 ハイリスク児における摂食嚥下リハビリテーションの安全管理体制構築への取り組み
中山 佐織(弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部)
- 5 美味しく楽しく/k/音トレーニング-飴を用いた構音訓練の工夫
下山 小粋(医療法人 泰仁会 十和田第一病院 リハビリテーション科)
- 6 重度運動性失語症を呈した症例に対してリズムを活用し訓練をした効果について
蛸名 舞香(十和田市立中央病院 リハビリテーション科)



ポスター発表演題

- P-1 令和6年能登半島地震 青い森JRAT珠洲市派遣活動報告
佐藤 一馬(津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科)
- P-2 青森県における失語症者向け意思疎通支援事業の現状と課題
古川 敏夫(黒石市国民健康保険黒石病院 リハビリテーション科)
- P-3 青森県言語聴覚士会の変遷・今後の展望
山内 淳(青森県立中央病院リハビリテーション科)
- P-4 八戸市内の学校向け吃音啓発出張講義の経過と展望
古内 洋(あすみ訪問看護ステーション)
- P-5 『その人らしく暮らす』ための訪問リハビリテーション
齊藤 由佳(メディカルコート八戸西病院・在宅リハビリテーション支援科)
- P-6 心肺蘇生後の経口気管挿管に伴い重度口腔内裂傷と嚥下障害を呈した一例
平泉 梨沙(津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科)



企業展示コーナー



旭松食品株式会社

伊那食品工業株式会社

キューピー株式会社

キッセイ薬品工業株式会社

ニュートリー株式会社

ハウスギャバン株式会社

ヘルシーフード株式会社

ホリカフーズ株式会社

株式会社マルハチ村松

マルハニチロ株式会社

宮源株式会社

日東ベスト株式会社

森永乳業クリニコ株式会社

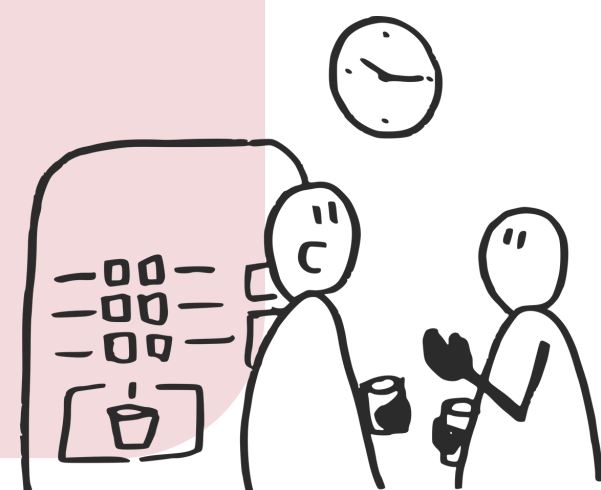
ザイコインターナショナル

島津商店

伊藤超短波株式会社

フードケア株式会社

バランス株式会社



タイムスケジュール

第1会場		第2会場	
	セミナーホール 4F		142講義室 4F
9:00			
10:00	10:00~10:10 開会式・会長挨拶・来賓紹介		
11:00	10:20~11:30 招待講演 失語症を学び直す 座長:山田 大介 演者:高倉 祐樹		ポスター会場 解放
12:00		11:50~12:20	ポスター発表 座長:浅田 一彦
13:00			
14:00	13:30~14:40 教育講演 「あきらめない」をやり通す-家族ならではの リハビリの記録とSTに期待する支援について- 座長:古川 敏夫 演者:北原 かなこ		ポスター会場 解放
15:00	15:00~16:00 口述発表 座長:奥山 淳子		
16:00	閉会式		

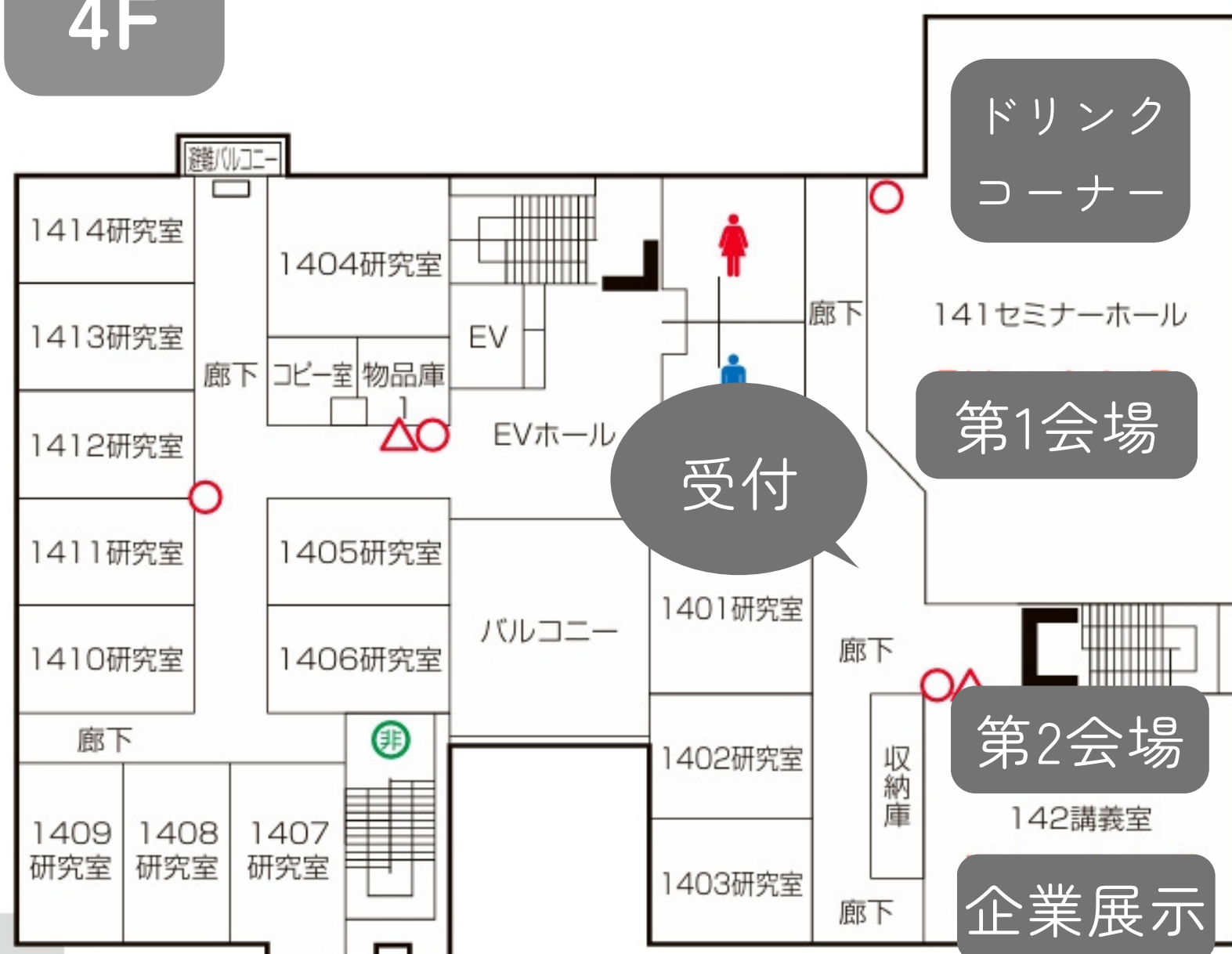


 アンケートにご協力をお願いします



会場案内図

4F



駐車場のご案内



お問い合わせ:八戸市立市民病院内 | 大高美貴 TEL:0178-72-5260MAIL:otaka.niji.miki@gmail.com